

氏名 (法人にあっては名称)	株式会社フジ (旧マックスバリュ西日本株式会社含む)
住所	広島県広島市南区段原南一丁目3-52 広島段原ショッピングセンター5階
計画期間	令和4年4月1日～令和7年3月31日
基準年度(*1)	令和元年度～令和3年度 (平均)

## 1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(\*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者) <input checked="" type="checkbox"/> (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者) <input type="checkbox"/> (3)特定事業者以外の事業者
------------	--

## 2 事業の概要

事業者の業種	各種食料品小売業 (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号：5621)
事業概要	食料品及び日用雑貨用品の小売販売

## 3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

## (1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比  $((a-b)/a) \times 100$  (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*5)	37,143 t-CO <sub>2</sub>	36,029 t-CO <sub>2</sub>	33,271 t-CO <sub>2</sub>	31,297 t-CO <sub>2</sub>	38,029 t-CO <sub>2</sub>	34,199 t-CO <sub>2</sub>
		3.0 %	10.4 %	15.7 %	-2.4 %	7.9 %
温室効果ガス みなし排出量(*6)		36,029 t-CO <sub>2</sub>	33,271 t-CO <sub>2</sub>	31,297 t-CO <sub>2</sub>	38,029 t-CO <sub>2</sub>	34,199 t-CO <sub>2</sub>
		3.0 %	10.4 %	15.7 %	-2.4 %	7.9 %
実績に対する 自己評価	様々な省エネ施策は実施したが、夏季の猛暑による電気使用量の増加と新電力会社のCO <sub>2</sub> 排出係数の上昇がCO <sub>2</sub> 増加の要因として考えられる。					

\*1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(\*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(\*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。

\*2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。

\*3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。

\*4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六フッ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。

\*5 温室効果ガス実排出量とは、上記(\*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。

\*6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(\*5)に対して環境価値(\*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(\*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比  $(a-b)/a \times 100$ )

事業分類	基準年度の 実績 a	計画期間の 目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び 実績に対する 自己評価						

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

『省エネ』、『創エネ』、『再エネ調達』の3つの取組みでCO<sub>2</sub>排出量の削減。省エネとしては、『LEDの更新・導入』、『省エネ什器の導入』、『空調の更新』を実施。再エネ調達では、全店舗を対象に令和5年12月より、全量分の非化石証書を購入。店舗では、温度管理や消灯、フィルター清掃などの節電対策を実施。事務所や休憩室など天井照明のまびき、閉店後冷ケースナイトカバー設置や保冷シート設置による保冷効果を高める事での節電など、主にソフト面での電気使用量削減に取組み。

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値(\*8)の活用等)

令和5年度12月より、全ての店舗の電力供給を中国電力からサミットエナジーに変更。使用した電力分をすべてに対し、再生エネルギー(非化石証書)を調達し購入。

4 その他の取組の実施状況

クールビズ(年間を通してノーネクタイ)

\*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。

\*8 環境価値とは、ワットクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(\*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	フジグラン広島
事業所の所在地	広島市中区宝町2-1
事業所の業種	百貨店、総合スーパー
事業の概要	衣料品・雑貨品・食料品販売を行うショッピングセンター

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比  $((a-b)/a) \times 100$  (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	3,818 t-CO <sub>2</sub>	3,703 t-CO <sub>2</sub>	3,231 t-CO <sub>2</sub>	2,619 t-CO <sub>2</sub>	3,792 t-CO <sub>2</sub>	3,214 t-CO <sub>2</sub>
		3.0 %	15.4 %	31.4 %	0.7 %	15.8 %
温室効果ガス みなし排出量(*5)		3,703 t-CO <sub>2</sub>	3,231 t-CO <sub>2</sub>	2,619 t-CO <sub>2</sub>	3,792 t-CO <sub>2</sub>	3,214 t-CO <sub>2</sub>
		3.0 %	15.4 %	31.4 %	0.7 %	15.8 %
実績に対する 自己評価	電気事業者のCO2排出係数が0.418から0.619に増加し、計画期間の目標値を達成できなかった。次年度以降も削減の取り組みを継続していく。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

外部照明の点灯を取りやめたり、冷ケースの棚照明を消灯するなど実施
----------------------------------

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値の活用等)

特になし
------

2 その他の取組の実施状況

特になし
------

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	フジグラン緑井
事業所の所在地	広島市安佐南区緑井1-5-2
事業所の業種	百貨店、総合スーパー
事業の概要	衣料品・雑貨品・食料品販売を行うショッピングセンター

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比  $(a-b)/a \times 100$  (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元~令和3年度 (平均値)	令和4~令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4~令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	4,047 t-CO <sub>2</sub>	3,925 t-CO <sub>2</sub>	3,428 t-CO <sub>2</sub>	2,652 t-CO <sub>2</sub>	3,871 t-CO <sub>2</sub>	3,317 t-CO <sub>2</sub>
		3.0 %	15.3 %	34.5 %	4.3 %	18.0 %
温室効果ガス みなし排出量(*5)		3,925 t-CO <sub>2</sub>	3,428 t-CO <sub>2</sub>	2,652 t-CO <sub>2</sub>	3,871 t-CO <sub>2</sub>	3,317 t-CO <sub>2</sub>
		3.0 %	15.3 %	34.5 %	4.3 %	18.0 %
実績に対する 自己評価	電気事業者のCO2排出係数が0.418から0.619に増加も、計画期間の目標値を達成した。次年度以降も削減の取り組みを継続していく。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

前年の取り組みは継続しつつ、電気代高騰の点からも今まで以上に省エネ意識を高めた。店内照度のさらなる調光制御によって、使用量を削減していき、不要な照明は不点とした。冷ケースの棚照明はほとんど蛍光灯であったため、効果は大きなものだった。外部照明については、お客様の不自由がないように最大限消灯することで削減に繋げた。

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値の活用等)

特になし

2 その他の取組の実施状況

特になし